

誘導案内表示に関する検討WGについて (中間報告)

1. 趣旨

令和5年度に開催された移動等円滑化評価会議において「当事者目線に立ったバリアフリー環境の課題等に関する最終とりまとめ」をとりまとめ、その中で速やかに取り組む課題の一つとして、案内設備(①バリアフリールートの把握のしやすさ、②経路誘導に関するサインシステム等、③音声案内等のわかりやすさ)が挙げられ、「公共交通機関のバリアフリー基準等に関する検討会」等において、具体的な検討に着手することとなっていることから、現行ガイドラインの内容充実化を目的として、「誘導案内表示に関する検討ワーキンググループ(以下、本WG)」を設置。

2. 検討内容

案内設備に関する検討事項のうち、①バリアフリールートの把握のしやすさ、②経路誘導に関するサインシステム等について検討等を行う。

3. 検討スケジュール※全3回程度開催予定

- ・第1回WG: 令和7年12月18日(木)
 - ・課題整理
 - ・検討の方向性(実態・ヒアリング調査実施)を提起
- ・第2回WG: 令和8年3月9日(月)
 - ・第1回WGでの意見への対応
 - ・サイン関連の動向
 - ・移動の連続性確保に関する事例調査
- ・第3回WG以降: 令和8年6月頃(未定)

4. 構成員等

学識経験者、障害当事者であってサインシステム等に精通されている方、行政機関の実務者により構成。
事務局: 国土交通省総合政策局共生社会政策課、社会システム株式会社

第1回WG

【検討の方向性に関する主なご意見】

- サインを取り巻く環境や情報の提供方法が変化しており、サインシステムの役割を整理する必要がある。
- 現在のガイドラインは「個々のサインをどう作るか」という視点に偏りが見られる。利用者目線での「移動の連続性の確保」という視点が必要

第2回WG

【調査の方針、実施結果】

- 駅やその周辺での「移動の連続性確保」に関して工夫している事例について実態・ヒアリング調査を実施し、ガイドラインの事例紹介・コラム掲載にふさわしい事例がないか検討
- 調査の結果、既存のサインに加え、床面サインを活用してエレベーターの位置を示した事例や床面のラインでバリアフリー経路を案内している事例、昇降設備に識別記号を付して案内をしやすくした事例、他の交通モードにラインで誘導している事例、ICTを活用した取り組み等を整理

【議論の主な内容】

- ガイドラインでは、事例の紹介の前に、移動の連続性が確保できていない理由や整備の考え方の整理が必要であること、サインの設置以前に適切な空間整備が必要であること、新たに整備したものについては当事者参画による評価とスパイラルアップが重要であること等の指摘がなされ、事例を断片的に切り取ってガイドラインで紹介することで「そのような対応さえすれば良い」というミスリードを引き起こさないように注意が必要であることを確認。

今後の検討の方向性

- ガイドラインの抜本的な見直しまでは予定していないが、空間整備の必要性、サイン整備の考え方やアプローチについて現行ガイドラインの説明・解説で不足がないか再整理。
- 本調査で収集した事例については整備背景等を再度確認した上で事例紹介・コラム掲載案を作成し、第3回WGではガイドラインへの掲載適否について審議を実施予定。